

平成 23 年度継続教育実施委員会活動の概要報告

日本大学 正会員 岩井 茂雄 (土木学会継続教育実施委員会 委員長)
日本工営 (株) 正会員 ○佐々木 寿朗(土木学会継続教育実施委員会 幹事長)

1. はじめに

土木学会の継続教育(CPD)制度は、平成 13 年度の創設以来、技術推進機構が運用・普及に当たっている。当継続教育実施委員会は CPD の一層の促進に向け活動しており平成 23 年度は、①CPD(継続教育)ガイドブックの改訂、②建設系 CPD 協議会シンポジウムへの協力、および、③「土木技術者の倫理」講習会を開催した。これらの活動概要とともに CPD の活性化に向け私見を交え報告する。

2. システム利用状況

土木学会 CPD システムは、利用者自らが CPD 実績をインターネット上で手軽に①登録できるほか、②登録状況の確認、および、CPD 登録証明書の発行申請も行えるシステムである。表 1 はこのシステムへの利用者のアクセス数であり、このデータは利用者の CPD 実施状況の 1 つの目安となる。

表 1 のとおり、全体の 82%ほどが全くアクセスしていない。この傾向はこの 1-2 年ではほとんど変化なく、システムへのアクセス数で見ると CPD に対する全体の取組傾向は極めて低調と言わざるを得ない。一方、全体の 5%弱と少数派だが認定資格保有者はその 66-73%ほどがこのシステムにアクセスしている。これは所定の CPD 単位数が資格の更新要件とされていることと調和的な関係にある。アクセス数と同様、登録単位数についても全体の 67%が単位登録していないのに対して、資格保有者は 80%が単位登録している。少数派の資格保有者は CPD 登録に熱心だが大多数はそうではない状況が読み取れる。

3. CPD(継続教育)ガイドブックの改訂

CPD 登録の中には表 2 のように自らの担当業務そのものを登録している場合が見受けられる。更にその CPD 登録証明書の申請がある場合もあり、早急な是正が必要なことから今回の改訂に踏み切った。主要な変更点は以下のとおり。

- ① ガイドブック中の参考資料「CPD 記録の登録事例」の削除
- ② 「表 2 教育形態と CPD 単位」における以下の変更
 - ・教育形態としての OJT の削除
 - ・組織内研修プログラム受講は年間 30 単位を上限とした
 - ・技術指導(大学、学術団体等からの依頼で講師を務める)は年間 20 単位を上限とした
 - ・自己学習の証明は年間 30 単位を上限とした
- ③ 参考資料「CPD に関する FAQ」の以下の変更
 - ・A1 森林・自然環境技術者教育会を建設系 CPD 協議会に参加している学協会に追加
 - ・A8 e-ラーニングを研修プログラムに含めた
 - ・A15 組織内の技術会議は技術会議への出席に含めない

キーワード 継続教育, CPD, CPD ガイドブック, CPD 単位, 技術者倫理

連絡先 〒102-8539 東京都千代田区麹町 5-4 日本工営(株)技術本部 TEL 03-3238-8016

表 1 CPDシステムの利用状況

2010年11月17日				
アクセス数	学会員		CPD登録 メンバー	合計
	資格保有	資格未保有		
0	666 34.0%	30,673 89.8%	450 21.7%	31,789 83.2%
1以上25未満	880 44.9%	3,123 9.1%	1,363 65.8%	5,366 14.0%
25以上	415 21.2%	375 1.1%	257 12.4%	1,047 2.7%
合 計	1,961	34,171	2,070	38,202

2011年4月25日				
アクセス数	学会員		CPD登録 メンバー	合計
	資格保有	資格未保有		
0	544 29.2%	29,703 89.2%	459 20.7%	30,706 82.2%
1以上25未満	861 46.1%	3,166 9.5%	1,444 65.0%	5,471 14.6%
25以上	461 24.7%	418 1.3%	319 14.4%	1,198 3.2%
合 計	1,866	33,287	2,222	37,375

2012年3月7日				
アクセス数	学会員		CPD登録 メンバー	合計
	資格保有	資格未保有		
0	512 27.7%	32,067 89.5%	476 20.3%	33,055 82.6%
1以上25未満	821 44.5%	3,261 9.1%	1,441 61.5%	5,523 13.8%
25以上	514 27.8%	514 1.4%	426 18.2%	1,454 3.6%
合 計	1,847	35,842	2,343	40,032

4. 建設系 CPD 協議会

現在 16 学協会が加盟している建設系 CPD 協議会が一層の CPD 促進に向けシンポジウムを H23 年 12 月 19 日 建築会館で開催している。発注者

による講演「CPD 利用の今後」に
続き、加盟学協会の CPD 制度比較
の報告があった。続く CPD システ
ムの課題と利用者の利便性向上
に関する討論では、制度の現状を
土木施工管理技士連合会、土木学
会、技術士会、農業農村工学会、
日本建築士会連合会、地盤工学会
が紹介し、これを皮切りに意見が
交わされた。

協議会の重要な機能として CPD
認定プログラムの相互提供があるが、加盟学協会の認定プログラムを自らの学協会の CPD 制度上の実績として
認めるか否かはそれぞれの独自性を相互に尊重している。たとえば主催者が 4 単位のプログラムとしている場
合、登録に際し 4 単位として認める学協会もあれば全く認めない学協会まで幅がある。この点はこれまでも利
用者から改善要望があるが懸案となっている。加盟学協会の CPD 制度は大別すると、技術士や土木施工管理技
士など資格や業務に連動し運用されている CPD 制度や地盤工学会などそうではない CPD 制度や、また土木学会
のように認定資格制度を運用しているため両方の側面を持つ CPD 制度もある。このように CPD 制度が資格や業
務とどのようにかかわっているかが背景にあり調整を難しくしている。類似な課題に、プログラムの質確保や
証明書は何を証明するかなどがある。このほかに抜本的な課題として CPD 機会の地域格差、CPD そのものの目
的や自己研鑽のやり方そのものの考え方などが討論されている。

5. CPD の本質

CPD は自らの能力の維持・向上が目的である。研修受講等の CPD プログ
ラムの成果は、例えば表 3 に照らせば容易に自己評価できる。一方学協会
などが設定している CPD 単位は、考え方によって幅があり確かな点は費や
す時間の目安でしかないということである。CPD はもとより個人に関する
ことであり自己管理が合理的である。一方、学協会は個々の技術者が必要
とする優れたプログラムを利用者の利便性や質を考慮し如何に十分な数を提供することに傾注するのが望ま
しい姿ではないだろうか。資格更新や業務の条件として CPD 実績を求める場合も、CPD 単位ではなくいかなる
能力を新たに習得したかその自己記録を求められればよいのではないだろうか。このような CPD 記録であれば
こそ建設技術者の DB 化においても有用な情報として機能すると考える。

6. 技術者倫理講習会

H24 年 2 月 24 日（金）土木学会講堂にて、第 7 回を数える土木技術者倫理講習会を実施した。テキストに
は前年度同様、「土木技術者倫理問題-考え方と事例解説 II-」を使い一般的な考え方の解説を手始めに、今回
は事例 11「安易なコピーアンドペースト」と事例 4「費用対便益の扱い」を解説した。参加者は二十数名と少
なく、参加者の意見も聞く進行としたが、反応は今ひとつであった。

昨年の東日本大震災以降、社会状況が一変したことが大きく影響したと思われる。すなわち、この難局に土
木技術者はどう対処すべきか。今問われるべき技術者倫理はここにあると思うが今後の検証が望まれる。

参考文献

- ・建設技術者の継続教育を考えるシンポジウム 2011 建設系 CPD 協議会主催 H23 年 12 月 19 日

表2 CPD登録の例

C PD記録シート							
氏名		殿					
ID							
CPD期間							
会社CPD単位		110.0単位					
主催者名	タイトル	教育内容	実施年月日	教育分野	教育形態	CPD単位	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X市水道局北部給水維持現場見学会	20XX/6/25	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X株式会社現場見学会	20XX/7/5	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： 社団法人X協会現場見学会	20XX/7/7	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： 日本下水道管渠推進技術協会現場見学会	20XX/7/13	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： 月刊推進現場見学会	20XX/7/22	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X市水道局給水部北部工事部現場見学会	20XX/7/23	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： 株式会社X組現場見学会	20XX/8/19	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X株式会社現場見学会	20XX/8/26	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X市青葉土木事務所現場見学会	20XX/10/5	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X株式会社現場見学会	20XX/10/7	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： 株式会社X組若手職員現場見学会	20XX/10/8	L	11	5	
株式会社 組	社外向け現場見学会【講師】	φX000mm組立式超大口径推進工法説明： X市土木事務所現場見学会	20XX/10/13	L	11	5	

【備考】このシートは、「継続教育記録登録証明書J」に記載されたCPD単位の内訳表です。CPD頁計 60

表3 研修効果の4段階評価

効果測定 レベル	研修評価
1	参加者満足度
2	学習目的の到達度
3	学習内容の実践度
4	組織への影響度

カークパトリック